

令和7年度 全国学力・学習状況調査のまとめ

富士吉田市教育委員会

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果並びに考察がまとまりましたので、本市の生徒(第3学年)の学習・生活状況の概要についてお知らせいたします。

■実施日時：令和7年4月17日(木)

■参加者数：中学校4校 生徒数 3年生 325名

1 学習の状況について

(1) 全体の結果(評価)

	国語	数学	理科
中学校3年	全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等

・教科に関する調査の平均正答率は、国語、数学、理科ともに全国平均・県平均と比べて、±5%の範囲内にあり、ほぼ同等です(文部科学省では「±5%の範囲内であれば、差はないものと判断できる」と示しています)。

(2) 各教科の状況について ○＝平均正答率が高い問題 ●＝平均正答率が低い問題

	出題の趣旨
国語	○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える。 ○目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える。 ●資料や機器を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるよう表現を工夫する。 ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。 ●読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える。
数学	○事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができる。 ●式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する。 ●素数の意味を理解している。 ●ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する。 ●統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善する。
理科	○火災における適切な避難行動に関して、気体の性質に関する知識が概念として身に付いている。 ○収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いている。 ○探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できる。 ●音に関して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できる。 ●状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、探究の過程の見通しについて分析して解釈できる。 ●電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想する。

(3) 学習状況の考察

①全体の状況

- ・全体的に無回答率が全国・県に比べて低く、記述式の問題については、特に低い状況にあり、問題に対して粘り強く取り組む姿勢が伺えます。
- ・「評価の観点」で見ると、「知識・技能」に比べると、課題を多角的に考えたり、論理的に説明したりするといった「思考力・判断力・表現力」については低い傾向が見られます。
- ・問題形式別では、「記述式」の問題に課題があり、数学や理科において、証明や実験計画、考察などを記述することに課題があります。

②各教科の状況

【国語】

- ・文脈に即した正しい熟語を問う選択式の問題は、正答率が低くなっています。
- ・「文章における登場人物の設定の仕方を捉える」の設問は正答率が高いが、「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える」では、正答率が低くなっています。
- ・「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」では、正答率が低くなっています。

【数学】

- ・「数と式」領域の「素数の意味を理解している」では、数学的用語の理解度が低く出ています。
- ・「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する」では、記述式で正答率が低くなっています。
- ・「図形」領域の「証明を評価・改善することができる」「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する」では、正答率が低くなっています。

【理科】

- ・「火災における避難時の気体の性質に関する知識が概念として身に付いている」「収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いている」では、正答率が特に高くなっています。
- ・記述式の問題で「新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できる」では正答率が高かったものの、「音に関する実験の結果を適切に説明できる」では、正答率が低くなっています。
- ・「呼吸を行う生物について、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いている」では、正答率が低くなっています。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査結果について（生徒質問紙による意識調査から）

【○望ましい項目 ●課題とみられる項目】

- 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時間に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」等の項目において、肯定的な回答が全国平均を上回っており、基本的な生活習慣、家庭での良好な環境が備わっていると考えられます。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の項目においては、肯定的な回答が全国平均を大幅に上回っているとともに、「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」等の項目においても上回っており、自己有用感や自己肯定感の高まりが感じられます。
- 「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目において、全国平均を上回る回答率となっており、規範意識が育っていると思われます。
- 「自分で学び方を考え、工夫することはできる」という学習への自主性に関する項目も肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- 平日、土日ともに、家庭学習の時間が短い生徒が多い状況にあります。
- 新聞を読まない生徒が多い状況です。

3 今後の取り組みについて（学力向上に向けて、本市において次の取り組みを推進します）

□基礎学力の定着に向けて

- ・学習の習慣化を図りながら、反復学習等を通して基礎的・基本的事項の習得・定着を図ります。
- ・タブレット端末を活用し、デジタルドリル学習等を推進していきます。

□主体的・対話的で深い学びに向けて

- ・「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実させられるよう、学習者主体の授業づくりを積極的に進めていきます。
- ・問題解決型の学習に取り組み、各教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に活用したり、新たな疑問をもち問題を見いだしたりする指導を充実させます。
- ・グループワークやペア学習を取り入れ、自分の考えを広げたり深めたりする学習を進めます。

□生活習慣や学習環境等の向上に関して

- ・基本的な生活習慣、家庭学習習慣の定着に向けて、家庭との連携を図ります。
- ・富士山学習における「地域を知る学習」と「交流活動」において、地域人材を積極的に教育活動に活用しながら充実を図るとともに、郷土や職業・進路について考える活動を推進します。
- ・朝読書等に継続的に取り組みながら読書活動を推進します。
- ・コミュニティ・スクールとして、学校や生徒に関わる課題を共有し、地域と協力していきます。

子どもたちは、自己肯定感や規範意識を高めながら、夢や希望を持って生き生きと学校生活を送っています。今後も、一人一人が目標に向かって輝くことができるよう、学校、家庭、地域の連携を深め、子どもたちの成長を支えていきたいと思ひます。

【 問い合わせ先 】

富士吉田市教育委員会 富士吉田市立教育研修所
TEL 0555(22)1111(内線515) 直通 0555(23)1766